

栃木県栃木市中根八幡遺跡第8次発掘調査概要報告

中根八幡遺跡学術発掘調査団

1. 中根八幡遺跡の概要

中根八幡遺跡は、栃木市南部（旧藤岡町中根）の渡良瀬遊水地（旧赤間沼）に面した台地縁辺部に立地する縄文時代前期～晩期、弥生時代、中世～近世の複合遺跡である。これまで奈良大学と國學院大學栃木短期大学を中心とした調査団によって、「環状盛土遺構」想定範囲を中心に調査を進めてきたが、前期・中期の土器も一定数出土している。なお、これまでの調査によって、C区は西側のA区と比べローム層検出面の標高が高くもともと西側に向けて傾斜していたこと、A区でみられた黒色土より上のローム再堆積層は見られず、仮に当時存在していたとしても既に削平されていることが判明しており、盛土が環状に存在していたかどうかの検証は不可能となったが、遺跡全体の特徴的景観を示す用語として「環状盛土遺構」の語は当面使用する。また、「環状盛土遺構」中央部には中世～近世に寺院が営まれたとされており、これに関わると思われる遺構・遺物も確認している。

2022年度は、2019・2021年度に実施したC区の調査を継続した。期間中、國學院大學栃木短期大学人間教育学科の体験発掘を実施したほか、調査後も展示・ワークショップ・講演などの地域連携活動を行った。中根地区ならびに地権者・関連事業の講師をはじめとする協力・援助を得た関係各位に謝意を表する。

（大工原・中村・小林）

2. C区の調査

（1）これまでの調査成果

C区は、遺跡中央の「窪地」から東側へ緩やかに傾斜し盛り上がった位置、当初想定した「環状盛土」の内側縁辺部に設定した。4次（2018年度）調査においては、窪地から東側に断続的にトレンチ調査を実施し、Ca32・33 グリッドで縄文時代中期の大形破片とそれに伴う遺構が確認された。続く5次（2019年度）調査では、北西側から南東側にかけて調査区を拡張し（Cb32～Cc36）、後期中葉～後葉の土坑・ピット群30基、称名寺式期の埋設土器（SK 6）が検出された。コロナ禍で発掘を行わなかった6次調査を挟み、7次調査（2021年度）は、5次調査区の主に西側のピット密集域を掘り下げ、下面で新たにピット9基を見出した。

（中村）

（2）本年度調査の概要

今年度の調査は、前年度に引き続きC区トレンチ中央のCb32～36 グリッドを掘り下げ、層位の確認を行った。記録方法として、SFMを用いるため、トレンチ内にターゲットを15点設定し、それらの写真撮影を行った。また、平面・断面図は作成した3次元データのオルソ画像を活用している（第1図）。

Cb32～Cb34 グリッドでは、約30cm掘り下げ、遺物集中箇所を確認したが、その範囲や下層の遺物との関係などは不明である。Cb35・36 グリッドではサブトレンチとして約55cm掘り下げ、溝状の掘り込みを確認したが、狭い範囲で形状は不明である。

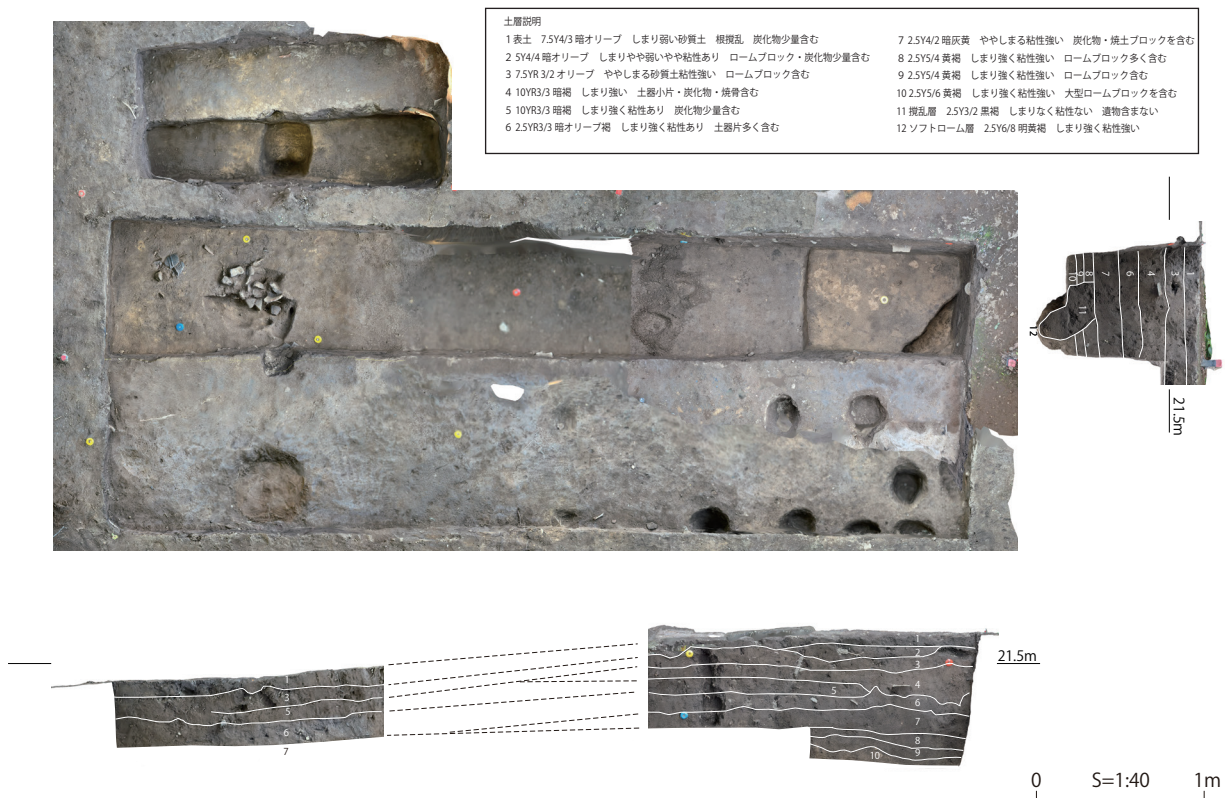
この調査で、表土を含めた12層を確認した。3層は2019年度調査・4層は2021年度調査の遺構確認面である。4層には後期中葉の土器片が少量混じる。5層は後期前葉～中葉の土器片が多量に出土した、またCb36グリッドから土偶も出土した。6層は中期後半～後期初頭の土器片が多量に出土し、また耳飾も出土した。2019年度調査でCa32,33グリッドの南壁断面で検出した4層と対応するが、同壁面で観察された掘り込みとの関係は今後の課題である。7層はCb32・Cb33グリッドでは土器集中箇所を検出した。直上には後期初頭の土器が、中には中期後半の土器片中心に多量に出土し、被熱痕がある礫が混在している、また石鏃も出土した。

土器集中 Cb32～33で比較的大形の破片を含む土器片集中箇所が確認された。周囲を完掘していないため性格は不明だが、掘り込みを伴う。炉や埋設土器とは考えにくい。図示した破片（第2図1～7）はいずれも加曽利E I式である。

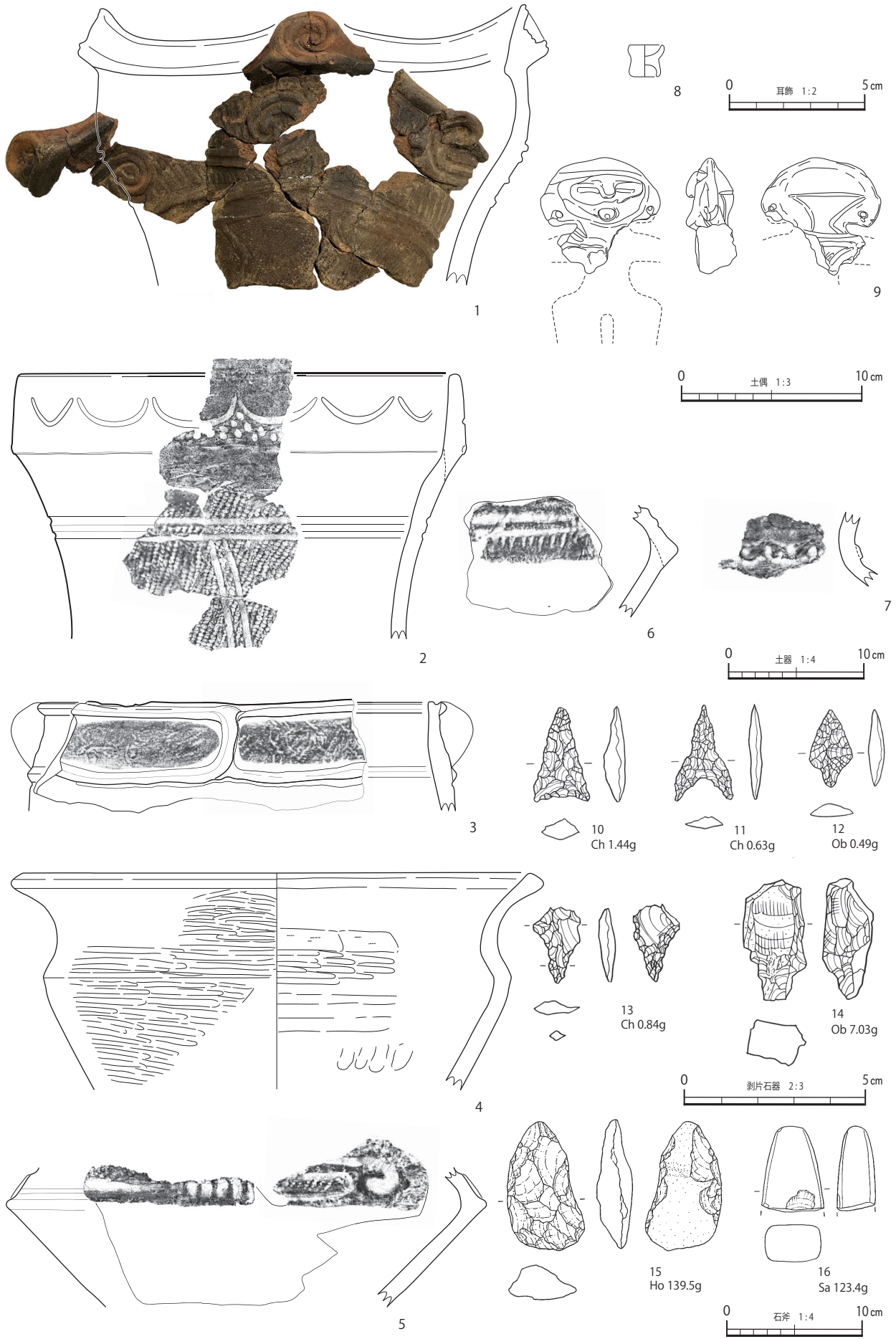
耳飾・土偶 第2図8は小形の土製耳飾である。同9は山形土偶である。頭部は山形を呈し、目は太沈線、口は棒状工具で円形の刺突を施す。鼻は細かな刺突で鼻孔を施す。縄文時代後期中葉の関東地方にみられ、特に目の表現は栃木県特有の太沈線で表現する。

石器 第2図10～12は石鏃である。11は先端部が鋭利で未使用品と判断される。12は後期後葉～晩期前葉のものとして推定される。13は石錐である。14は黒曜石製の石核である。15は水平回転技法で製作された打製石斧で、早期末～前期前葉のものである。16は表採された定角式の磨製石斧である。

(荒木・上野・小林・大工原・中村)



第1図 調査区土層断面図



第2図 8次調査出土遺物

付記

本調査は國學院大學栃木短期大学学長を主体者、大工原豊を担当者として、令和4年6月8日付で栃木県教育委員会教育長宛（栃木市教育委員会経由）で文化財保護法第92条に基づく発掘の届出を提出し、6月21日付で県教育長より実施許可の通知を得た。出土品については9月15日付で栃木警察署長へ埋蔵物発見届、県教育長宛に埋蔵文化財保管証を提出し、9月18日付で県教育長より文化財認定を受けた。また、前年度に引き続き「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅣ」として栃木県大学地域連携活動支援事業の助成を得た。

調査・整理・成果公開参加者（学年は2023年3月当時）

奈良大学 小林青樹（教授） 荒木青花 垣内翼（大学院修士2年） 江端樹大（史学科4年） 上野弘樹 岡田竜一 木村まい 坂口明日香 進藤久慈 富谷光莉（文化財学科1年）

國學院大學栃木短期大学 上原勇斗 大久保綾乃 尾作紗枝 山口駿 市原初彩 森田華宙（日本文化学科2年） 新井颯太 家田貢希 関口琉樺 武田穂里 竹屋蘭音 若林結 脇坂女琉（日本文化学科1年） 石原大也 岩下愛実 大川希星 大西結子 鈴木杏奈 鈴木涼介 松坂波唯人（人間教育学科1年） 後藤正人（教授） 早川富美子（教授） 大工原豊（准教授） 岸美知子（助手） 柿沼里恵子（助手） 高垣美菜子（学芸員） 博物館実習Ⅱ受講生 小野寺真志 菅田孝健 椎名あい（卒業生）

国立歴史民俗博物館 中村耕作 **壬生町立歴史民俗資料館** 伊沢加奈子 **とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター** 佐藤有紗 越志風沙 **真和技研** 山入端優華 **大田原市教育委員会** 村山武 **館林市教育委員会** 宮田圭祐 **八千代町教育委員会** 爲我井亮太 **野田市教育委員会** 川名葵 **山梨県教育委員会** 岩永祐貴 桐部夏帆 **茅野市教育委員会** 吉村璃来 **信濃町教育委員会** 中山雅士 **尼崎市教育委員会** 新里遥 **岡山市教育委員会** 辛川あかり

協力者

中根地区 中根八幡神社 栃木市教育委員会 栃木県教育委員会 FMくらら857 国立歴史民俗博物館
福富善明 石塚孝市 福富林 小島正明 成松尚子 高見哲士 永島幸 小沢美和子 初山孝行 尾島忠信 藤田典夫
菅頭明日香 芹沢清八 角田祥子 塚本師也 下岡順直 上野修一 林克彦 犬竹智裕 大久保芳紀 小曾根葉月 小山百恵 柴田祐希 須藤和佳 田村博 能登健 水村侑真

本報告のほか下記において成果の一部を発表した

國學院大學栃木短期大学考古学研究会・博物館学研究会 2022.10.13 「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅣ」栃木県大学地域連携活動支援事業中間報告会（栃木県庁）

國學院大學栃木短期大学考古学研究会・博物館学研究会 2023.2.6 「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅣ」栃木県大学地域連携活動支援事業報告会（栃木県庁）

「大学が実施した発掘調査から（國學院大學栃木短期大学・奈良大学）中根八幡遺跡第8次発掘調査（栃木市中根）」『栃木県埋蔵文化財センターだより』2022 9月号

「令和4年度日本史系サークル合同展示」國學院大學栃木学園参考館 2018.10.29～

「中根八幡遺跡8次調査速報展」栃木市役所4階 2022.12.1～12.16

「講座 縄文時代の耳飾り・ワークショップ（オープン粘土で耳飾りをつくろう）」とちぎ蔵の街楽習館 2022.12.4

「中根八幡遺跡関連講演会・ワークショップ（石器づくり）」中根公民館 2023.1.22

1～7次の年次報告は全国遺跡報告書総覧に掲載している